

「自主、自立、自信」子供の「できた!」を見守る伴走者



いずかし

R8. 9月3日 18号

文責：園田

被災の教訓を学びと成長に生かす



たです!」「家の中がぐちゃぐちゃになりました」「校長先生は大丈夫でしたか?」など、その時の様子を話してくれて、私のことまで気遣ってくれる子どももいました。

10年前の熊本地震の時に生まれた子どもは、今は四年生になります。ついこの前のような気がしますが、月日が経つのは早いです。当時の地震の恐ろしさや大変だったことを忘れていたわけではありませんが、こんなにも短い周期で大きな地震が、また熊本で起こると思ってもいけません。改めて備えの大切さを思い知らされました。

今回の地震で子どもたちは、地域の復興のために他県からたくさんの方が応援に来てくださったり、温かい支援活動をしてくださったりした姿を目の当たりにして、助け合う気持ちの大切さを学んだことと思います。2学期はこの温かい支援に支えられてスタートした事への感謝を忘れずにがんばってほしいと思います。

●始業式校長の話(要約)

今年の夏休みは「記憶に残る夏休み」になりました。みなさんの中には、お家が壊れてしまった人や、お家の中の大切な物が壊れてしまった人、水や電気が来なくてずっと不便な生活を送った人、避難所で生活した人、親戚の家に泊まっていた人など、それぞれがこの夏休みを必死で過ごしたことと思います。本日に、災害はいつどこでおこるか分からないことを思い知らされました。

植柳小学校の体育館には多くの方が避難して来られていましたが、避難所運営には鹿児島や大分、福岡、岡山、島根などからたくさんの方々が応援に来てくださったり、NPO法人かたりば様には子どもの居場を提供していただいたりしました。

さらに、県内はもとより愛媛県からはキッチンカーが来て、冷たい食べ物差し入れもたくさん提供していただきました。

このように、たくさんの方の温かい支えがあって、地域の方やみんなの心は元気になっていき、辛いときこそ助け合うという事の大切さを学びました。

今日から2学期が始まります。久しぶりに友だちに会えてうれしい気持ちで一杯だと思います。友だちもたくさん辛い思いをしたはず。災害はまたいつ起こるか分かりませんが、助け合い、人をいたわる気持ちを持ってこれから学校生活を送るようにしてください。

応急給食について

今週から応急給食の提供が始まり、保護者の皆様にはタッパー容器等のご準備をいただいております。感謝申し上げます。

今までレトルト食品を食べさせたことがなく、体調や栄養面を心配されるご家庭もあるかと思いますが、お気持ちは大変よく理解できます。只今、施設復旧に向けて全力で動いていただいているところであり、今回の措置はこの非常事態において、子どもたちの『命をつなぐ』ための応急給食と捉えています。

また、学校としては、この不自由な状況下でも、準備された非常食を全員でいただく経験自体が、将来の災害を生き抜くための重要な防災教育(共助の訓練)とも考えています。

みんなが我慢し、助け合っている被災環境の中で、特定の理由(アレルギー等)がない状態で別の食べ物を準備し食べさせることは、周囲の子どもへの心理的な影響(羨望、不公平感、孤立感)や、被災下の生活における協調性を学ぶ機会を損なってしまうのではと考えます。この機会に家庭でもレトルト食品や非常食を少しずつ食べる練習(ローリングストックの試食など)をされてみてはいかがでしょうか。

また将来、さらに大きな災害に見舞われた際、お子様が非常

食を拒まずに食べられる『生きる力』を育むためにも、もう少しの間、学校とご家庭で一緒に励みながら、この局面を乗り越える支援をしていただけないでしょうか。どうか、ご理解とご協力をお願いいたします。

ご意見がある場合は遠慮なく学校までご相談いただき、どうしても難しい場合の工夫について等、個別に相談させていただきますので、重ねてご理解とご協力をお願いいたします。



◆9月生活目標

持ちのよいあいさつや大きな返事をしようです。ご家庭でも声かけをお願いします。

